



並木中等story

令和2年6月30日号

時が解決してくれることも！

恥ずかしい、ショックだという経験をしたことはありますか。私の思い出に残っているショックは、中学3年の時の生徒会長選挙の立ち会い演説会の時です。受けをねらい、原稿をトイレットペーパーに書いていきました。そこまではいいのですが、原稿がにじんで読めなくなっていたのです。その後は、頭が真っ白状態で、何を話したか覚えていません。当然、落選。その後、私は落選した生徒会長候補が任命される国旗掲揚係になりました。

立ち会い演説会の後、自信を無くし、しばらく落ち込んでいました。しかし、時間は



私を元気にしてくれました。精神科医の水島広子先生の『折れない心の作り方』（紀伊國屋書店）に“衝撃を受けたな、と思ったら、ただじっとしていればよいのです。できれば、信頼できる相手に、「こんなショックなことがあったんだ。」と話して慰めてもらえれば、早く回復できるはずです”と書かれています。ショックを受けた時は、じっとしていて、時が過ぎるのを待つことでもいいのです。

《並木中等の感染防止対策》

- 昇降口でサーモグラフィー等を用いて体温を測ります 健康観察を行います
- 登校後も含め、機会あるごとに手洗いをします 各階に消毒液を設置します
- マスクを着用し、教員と生徒が近い場面はフェイスシールドを使用します
- 教室の両側の窓、ドアを一部開け、換気をします 今後、扇風機も設置します
- 生徒どうしが対面する授業は当面控えます